

アツル長

気配子下

北東アジア課

送土

竹内 転在



お

在ソラル 日本人遺骨の引取について

43.10.2

北東アジア課

白

在韓 日本人遺骨の日本への送還運動をしている

白

李興烈氏(ソラル元日本人墓地の火葬場にある日本

人遺骨の名義上の管理人)は、本日、森田に電話

を掛けて下記のとおり伝えた。

(現在 李興烈氏は 在日中 日航ホテル

408号室に泊っている。) (李興烈氏 1945年5月18日 村喜頼孝照)

1. 本年10月末～11月にゴルフ会の名目で岸、矢次

両氏がソウルに来る。その際にソウル元日本人墓地

火葬場に保管してある日本人遺骨（約5,000体と

稱す）を在韓日本人遺骨奉安会^{安里館}で^{岸・矢次}両氏に引渡す

方針を進めてくる。私はその連絡をしに来た。

2. ^{私が}矢次氏にあっては、矢次氏は

「在韓日本人遺骨を引取ることについて^{私が}厚生大臣

に話をしておいた。ところが厚生省の援護局長から

外務省側に連絡したところ、外務省は「遺骨の送還

は政府間で行なうものであって民間同^士はやら

ない方針である」とのことであった。だから自分ら

は、この遺骨内題に「してやるべきではない」といって
いた。

これは話が違っているので、自分は明日外務省に
行ってこれについてお話をしたい。

3. 自分^{と外務省}の考えでは、これは日韓の外務省で話を
したところでまじまるものではない。

^{韓国の側} (1) 遺骨は外務部ではなくて、保健社会部の所
管である。かつて西本願寺関係者が韓国にきた
ときにソウルの西本願寺にあって遺骨を渡した。

だから今度も岸、矢次両氏を遺族の代表とみな
^{在韓}して日本人遺骨を引渡すことができる。

することは必ずかし、その移転の前に日本人

遺骨を何としても日本に運ぶようにしたい。

(但し李興烈氏の「日本遺骨」ソウルにあるもの
のみである。)